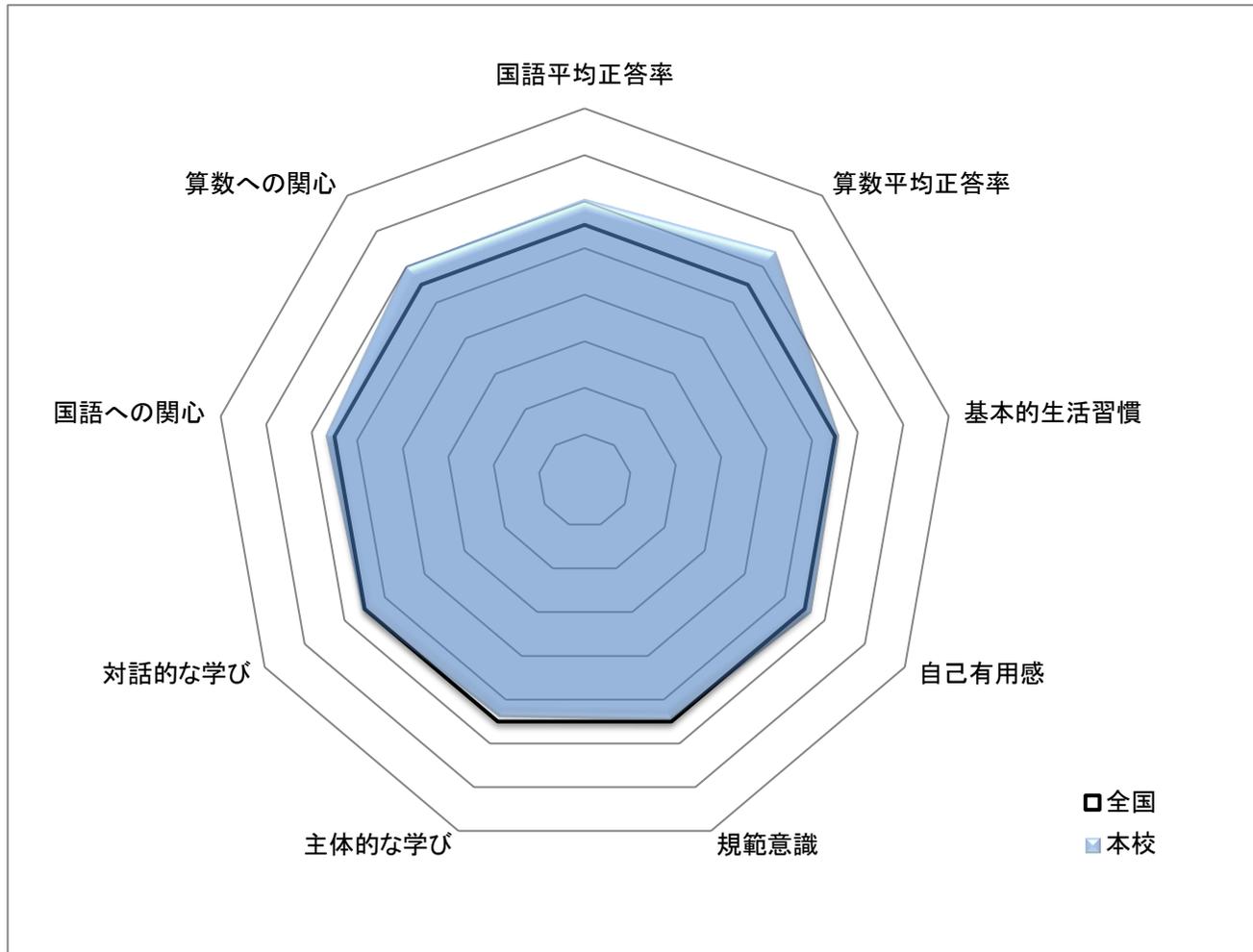


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

「基本的な生活習慣」「自己有用感」「規範意識」「主体的な学び」「対話的な学び」等について、すべて全国平均と同じまたは平均を上回っている。また、(1)「算数の勉強は好きですか」(2)「算数の授業の内容はよく分かりますか」は全国と比較すると(1) +21% (2) +12%と共に全国を大幅に上回っている。平均正答率も国語・算数共に75%であることから、本校の児童は学びへ向かう姿勢や意欲をもち、小学校で学ぶべき学習内容をほぼ身に付けていると考えられる。

《授業改善のポイント》

- ・「西小スタンダード」(学習・生活)を基本に低学年から培ってきた学習習慣や生活規律を生かし、互いに意見や考えを伝え合い、切磋琢磨し合える学習環境を保障していく。
- ・自己有用感に関する質問のうち(1)「自分には、よいところがあると思いますか」(2)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」が全国と比較すると本校は(1) +7% (2) +5%である。教師が児童を認めることで、児童の学びに向かう力が高まると考える。一方で「将来の夢や目標をもっていますか」は-4.4%であった。教科の学習だけでなく、特活や道徳などの全教育活動を通して児童の生きる力を育む授業改善を推進していく。

《チャートの特徴》

このチャートは、「教科調査」(国語、算数)と「児童質問調査」について、全国を母集団として本校の調査結果を表したものである。内側の太線は、全国平均を表している。青色部分が本校の調査結果である。

本校の調査結果を見ると、教科の学力と児童の学習に関する内容がともに、概ね全国平均またはそれを上回りバランスがとれていることが分かる。特に国語・算数の平均正答率と、国語・算数への関心が高い結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

児童の健全な成長を育むために、家庭と学校が連携して、児童への温かい励ましや、声掛けをしていくことが必要である。各家庭と情報を共有し、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化、自己肯定感を育てていく環境づくりの協力を呼び掛けていきたい。